

第5学年〇組 家庭科学習指導案

指導者 福岡市立〇〇小学校

〇〇 〇〇

1 題材名 めって！使って！楽しい生活

2 指導観

〈こんな子どもたちを〉

本学級の子どもたちは、1学期の家庭科の学習において、自分の家庭生活を見直したことを生かして、家族の一員として家族のために何か役に立ちたいという願いをもつようになってきている。

「さいほう用具を使おう」では、裁縫用具の使い方を知り、玉結び、玉どめ、ボタンつけなどの技能を習得し、手縫いで簡単な小物を作った。ほとんどの子どもたちが製作の喜びを感じながら丁寧に美しく仕上げる事ができていた。

裁縫経験に関するアンケートでは、裁縫が「大好き」「好き」が86%をしめている。また、学習後、家庭でも裁縫をしているかどうかについては70%で、家庭で裁縫する子も多い。しかし、ミシンを使った事があるかについては32%とミシン縫いの経験がない子が多い。

物作りの楽しさを味わい始めてきた子どもたちが、安全で正しいミシン縫いの技法を習得する事で、製作の幅を広げ、ひとりひとりの思いや願いをこめて製作できるようにし、作る喜びと完成の充実感をもたせるようにする。また、作った物を使うことによって、家庭生活をよりよくしていこうとする実践的な態度をもった子どもたちを育てていきたい。

〈こんな題材で〉

本題材は、布・布製品の特性を知り、ミシン縫いの技能を習得し、家庭生活をよりよくしていく物の製作を通して実践的な態度を育てることがねらいである。

具体的には、

- ①布の特性を知ること
- ②布端の始末の仕方がわかること、
- ③自分の家庭生活に役立つ布製品の材料、製作手順、製作方法を理解すること

などが主な学習内容である。

これらの学習を通して、子どもたちは手縫いとミシン縫いを活用した布製品の製作についての基礎・基本を身に付けることができる。さらに子どもたちが自分で生活をよりよくしていくための方法を考えることにより、課題を解決する力を養うことができると考える。

〈こんな指導で〉

気づく段階において

- 布の種類や縫い方の特徴や適正に気付かせる。
 - ・身近な布製品の目的にあった活用や、布の性質の違いなどについての調べ学習、比較実験
 - ・手縫いとミシン縫いの強度や縫い目、適正などについての比較実験

⇒基礎的な知識を実感を持って獲得させ、製作活動につながる視点を持たせる。

つかむ・見通す段階において

- ミシン縫いと手縫いの部位による効果的な使い方を考えさせる。
 - ・個人課題にそって製作計画の中で、確かめたい事を実習し、よりよい製作方法を見出す。

⇒個人課題解決のために自信を持って製作活動にのぞませる。

〈題材の目標〉

- 布を用いて生活に役立つ物を製作することに関心を持ち、布の特徴について調べたり、製作しようとする。(意欲・関心・態度)
- 自分の生活に役立つ布製品を考え、材料や形など自分なりに工夫して作ることができる。(創意工夫)
- 生活に役立つ布製品の製作計画にそって、手縫いやミシン縫いで布端の始末をして作ることができる。(技能)
- 裁縫用具やミシン縫いの安全な取り扱い方、及び製作に必要な材料や手順、方法を理解することができる。(知識・理解)
- 家族の生活に役立つランチョンマット、エプロンなどの製作の仕方を理解することができる。(知識・理解)

3 指導計画 (全 13 時間)

段階	配時	学習活動	主な支援	評価規準
事前	課外	* 自分の裁縫経験について想起し、我が家の布製品を持ち寄る。	* アンケートで 1 学期の学習を想起させる。	
気付く	1 (本 時)	1 暮らしの中の布製品を調べる。 (1) 家庭で見つけた布製品の働きについて話し合う。 ○布製品のはたらき ・どこに ・どのようなものが ・何のために ・よさ (2) どのようにできているか調べる。 ・布の性質 (手ざわり・厚み・伸び方・ほつれやすさ) ・縫い方 ・縫い目 学習テーマ 布地を選び、ミシンを使って生活に役立つ物を作ろう。	* いろいろな布製品や布を準備しておき、触らせたり観察させたりする。また、観察して気付いたことを言葉で表現させる。 * その後の自分の課題決定につながる布製品を提示する。	・自分の家庭生活を見つめて、布の役割に関心をもつことができる。 (関心) ・身近な布や布製品の材質や縫い目などの特徴の違いを意欲的に調べている。 (意欲・知識)
つかむ・見通す	課外 2	* 家庭での調べ学習をする。(観察・家族からの聞き取り) 2 前時で学習した事と家庭での調べ活動をもとに自分の課題を決める。 ・作りたい物のデザインとサイズ (我が家に合った工夫) ・使う材料 ・製作計画 (製作手順) ・各部分の縫い方	 * 作品見本や資料などを用意する。 * 布端の始末の仕方見本を提示する。	・我が家に必要な布製品を考えることができる。 (創意工夫) ・家庭での調べ活動をもとに、作る物を決め、作り方や手順を調べて製作計画を立てることができる。 (創意工夫)
追究し・解決する	9 ① ② ⑥	3 製作計画に沿って、製作をする。 ① (1) ミシンの安全な使い方を 知る ・出し方としまい方 ・コントローラーの踏み込み方 ・ミシン針のつけ方 ② (2) ミシンの直線縫いの仕方を 知る。 ・下糸の巻き方 ・上糸のかけ方と下糸の引き出し方 ・縫い始めと縫い終わりの方法 ⑥ (3) 製作計画に沿って、製作をする。	 * ミシンの技能習得については、資料や評価カードをもとにペア追究できるようにする。 * 作品別に製作グループを作る。	・針の正しいつけ方を理解している。 (知識・技能) ・下糸の巻き方を理解し、正しく巻くことができる。 (知識・技能) ・上糸のかけ方が分かり、正しい順序でかけることができる。 (知識・技能) ・制作計画に従い、工夫して製作することができる。 (創意工夫・技能) ・意欲的に製作に取り組んでいる。 (意欲)
生かす	1	4 実践発表会をする。 (1) 家庭で使う。(課外) (2) 報告会をする。	* 互いの工夫を取り入れることができるように製作計画 (材料・作り方・工夫・使いやすさ) を冊子にまとめる。	・使ってみて、便利さや楽しさを実感することができる。 (関心・意欲・態度) ・友達の作品のよさを見つめることができる。 (関心・意欲・態度)
事後		* 家庭実践 (活用) の継続	* 家庭からの肯定的評価をもらえるように、事前にお便り等で知らせておくようにする。 * 使ってみた家族の声や使っている様子を学級通信で紹介する。	・仕上がった作品を継続して使ったり、日常生活の中で活用しようとしている。 (関心・意欲・態度)

4 本時 (1/13) 平成21年10月19日(月) 5校時(60分) ○○小学校家庭科室にて

(1) 本時目標

- 身の周りの布製品を調べて、布でできているものに興味・関心をもつことができる。
(興味・関心・態度)
- 布製品のはたらきや布の性質、ミシン縫いの特徴を理解することができる。
(知識・理解)

(2) 本時の授業仮説

題材の導入で、布製品のはたらきや布の性質、ミシン縫いの特徴を理解するために、次のような活動を仕組みば、基礎的な知識を獲得するとともに家庭生活を見つめる科学的な見方ができ、今後の自分の生活に役立つ物の製作に意欲をもつことができるであろう。

① めあてをもって主体的に発見活動ができる導入

事前に自分の家庭内にある布製品を持って来るように呼びかけを行う。布製品を持参することで、身の回りには多様な布製品に気づくとともに、布製品のはたらきや縫い方、布の性質の違いがあることに気づき、本時の発見活動の視点をもつことができるであろう。

〈子どもの姿〉「身の回りにはたくさんの布製品がある」「布製品のはたらき・縫い方・布の材質の違いがありそうなので調べたい」という趣旨の発言を行っている。

② 実感を伴った発見ができる体験活動 ⇒言語活動

ア 各自が持ち寄った布製品を使用目的別に分別する活動(グループ学習)を仕組みば、生活場面を想起しながら、布製品のはたらきを実感することができるであろう。

〈子どもの姿〉布製品を使用目的別に手にとって分類している。

イ 各自が持ち寄った布製品(手縫いとミシン縫い両方)の縫い方を観察させる活動(各自、製品は班で共有)を仕組みば、身の回りで多く使われているミシン縫いの良さ(縫い目が細かくそろそろ、上糸と下糸が絡んで丈夫であること)を実感することができるであろう。

〈子どもの姿〉ミシン縫いの良さに気づき発言している。

ウ 教師が長い直線をミシン縫いする実演を見る活動を仕組みば、ミシン縫いの良さの一つである速さを実感することができるであろう。

〈子どもの姿〉「速い」とつぶやいている。

エ 4種類の布見本を一人一人ですわったり伸ばしたり、はしをほどいたりする活動を仕組みば、布の種類による特徴を実感することができるであろう。

(フェルト、織物、編み物、キルティング)

〈子どもの姿〉布見本をさわって、それぞれの特徴に気付いて発言している。

(3) 準備

教師：学習プリント、ミシン(教師用)、布製品見本、布見本4種類

児童：家庭にある布製品数点、1学期に製作した小物、筆記用具

